



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第39号

発行日
平成22年 3月1日

目 次

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| P 2 年末の集い・研修会 | P 5 弥山登山道清掃・新春登山 |
| P 3 晩秋の公募観察会 | P 6 岩国でバードウォッチング |
| P 4 宮島二流記（その4）
平田 広三郎 | P 7 入浜森林再生事業・陶貝殻塚
編集後記 |



門前川（岩国）のマガモ

岩国・門前川の野鳥観察会において撮影したものです。観察を始めたすぐの場所で、デジスコを設置したのですが、動くものの撮影は難しく、急いで200mmの望遠で撮ったものです。腕は別にして、距離は150mぐらいでしたが、絵に書いたような番（つがい）のマガモが撮れて喜んでいます。

（P 6に関連記事）

（写真・文：平田 広三郎）

4月3日(土)総会

平成22年度PVの会・定期総会を下記要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4月3日(土) 9:30～12:00
(受付 9:10～)

場所 杉之浦公民館大研修室

- 1、当日欠席の人は委任状を提出してください
- 2、午後から小なきり浜の観察会と清掃活動を実施します

PV年末の集い研修会

日時 12月5日(土)13:00~

場所 宮島市民センター

参加者 足立 池下 井上 岩崎 大成

小方嗣 小川 川崎 北野 小林ペア

佐伯 佐藤 島 末原 田中 中道

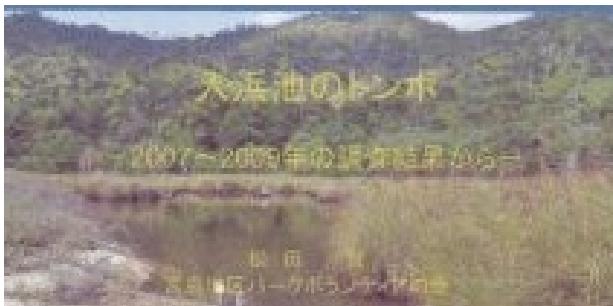
野呂田 平田 前田 弁田 松田 村上

柳瀬 横路 (環境省)桑原、西自然

保護官 広瀬 AR

まず、松田(先生)会員の講習。何回聞いても、新鮮な感動がある。入浜に30種のトンボがいるなんて、信じられない。

さらに宮島全体では54種も。私には、赤



トンボ・塩からトンボ・糸トンボ・やんま、の4種類しかない。種類を見つけるのに、見る範囲を決め・時間を決め、じっと目をこらす(ラインセンサス法とか)。ビール片手にのんびりと観察するのもいいなと不謹慎ながらも思った。種類の細かい見分け方、よく知らないながらも、楽しかった。

宮島トンボと他のトンボ、共生できないのが残念。長期間の水質・水温・植物・生き物



市民センターでの研修会

の定点観測の素晴らしさも理解できた。

恒例の忘年会。昔で云う暮れ六つの頃の開始。いつもの茶屋・焼き牡蠣・オデン等々と

入浜池のトンボ相(中間考察)

- ・入浜池において、7科30種のトンボ類が確認された
- ・構成種は広島県の沿岸・平野部～丘陵地の池沼にみられる止水性種が殆んどであった
- ・細流・清水との関わりのある流水種はきわめて少ない
- ・近年、新たに加わったとみられる種(タイワンウチワヤンマ)が確認された
- ・塩分濃度など環境条件に変化がみられ、今後の動向が注目される

松田さん発表の中間考察

お酒、このワンパターンの大きいなる慣習、いいですね。皆、雑学好きの面々。話して飲んで全く飽きがきません。来年もいい年でありますように。研修会参加・・28名、忘年会参加・・21名でした。(佐藤庸夫)



恒例の焼き牡蠣で忘年会

「みせん」次号は

第40号・10周年記念特集

発行日 6月1日

原稿締切り 4月末日

特に10周年にあたり、皆様の活動に関する思い出記事をお待ちしています。

晩秋の公募観察会

復旧後の大聖院道

一般参加者 48名

日時 09年11月21日(土)9:00~15:30
参加者 足立 井上 岩崎 大成 小方ペア

小川 川崎 北野 小林ペア 佐渡
佐藤 坂本 島 中道 野呂田 平田
舛田 村上 六重部

(環境省)桑原自然保護官 広瀬AR

一般公募による「弥山登山道(大聖院コース)の自然と歴史文化探訪」が開催されました。心配された天候も次第に回復し、参加者も多く一般48名、環境省および会員23名、合計71名の大集団でした。

ストレッチ体操の後、6班に別れて町家通



宮島桟橋前に集まった参加者

りを歩きましたが、人数が多いため、しばしば交通渋滞を起こしてしまいました。

以下1班(町石探訪中心の班)の行動を中心記述します。

10時、大聖院前の広場にて、平成17年の土石流災害発生前と復旧後の町石の状況の説明があり、登山道に入りました。高倉上皇御幸石の上から白糸の滝を見上げながら、「土石流により800年前の景色に戻った」との説明に多くの感嘆の声が聞かれました。11時前、里見茶屋跡展望所で休憩。宮島の植物の特徴(多種あること、たくさんの希少種があることなど)や紅(黄、茶)葉の起こるメカニズムなどが、簡潔に説明されました。

途中、一般の登山者や坂道を駆け上がって行く若い学生も多く、これらの登山者を邪魔

しないように歩くことを心がけました。

12時前、遊女の石畳跡では土石流災害以前の状態に比べ石畳の情緒がなくなったとの説明には同感者も多かったようです。

仁王門跡で休憩し、12時30分、予定通り靈火堂前に到着し昼食をとりました。昼食後、13時10分、錫杖の梅の再生と時雨桜の苗木



弥山頂上での紙芝居「厳島合戦」

の移植について説明を聞いた後、弥山頂上に向かいました。登山道が狭いため、すれ違いに時間がかかり、頂上に登ると、お祭りのような人出でした。

13時30分、紙芝居により「厳島合戦」の歴史を勉強しました。参加者は、腰を下ろしたり、岩の上に立ったりして熱心に聞いていました。14時10分、頂上発。もみじ谷ルートを下り、13号堰堤で小休止した後、15時30分、紅葉谷公園で解散式を行いました。

今回も時間の設定が適切で、ゆっくりと説明を聞きながら歩くことが出来ました。晩秋の一日のちょっと知的な登山でした。

(川崎 昭壽)

PV10周年記念行事

PVの会、設立10周年を迎えるに当たり次のような内容で記念行事を行います。

1、記念式典・パーティー

6月5日(土)10:00~宮郷ギャラリー

2、写真展

6月3日~8日 宮郷ギャラリー

PV10年間の活動記録

会員が選んだ新宮島八景

幹事会で選定した14点の中から4/3総会で会員の投票で決めます。

宮島二流記

(その 4)

平田 広三郎

Q4 : 「ばくち尾は何か意味があるのでしょうか？」

本題のきっかけは、昨年 3 月の「RCC エコ・ウォーク」に参加し、「ばくち尾」に登り、何故古くから地名として残っているのだろうかと疑問に思ったからです。

A4 : 「あるようです。」

その理由を「ばくち」と最近よく新聞や弥山の紹介パンフレットに出てくる弥山頂上の大きな岩「磐座(いわくら)」をキーワードにして私なりに説明していきます。

安芸町誌(今は合併し広島市東区温品)には、金碇(かないかり)明神社(現存のはず)の由来記として温品記の詳しい紹介があります。温品記は、江戸時代寛政十年(1798)の著述ですが、要点のみ記してみると、「(神功皇后は)この辺りは海辺ゆへ端し近なりければ、直に高尾山(現存)へと御立越へなされ、麓にいたりたまひ・・・ふもとに四角なる大岩あり、滝理の岩といふ、俗に白(ば)くち岩と言、此岩に今の世までふし記あり岩のおもてに多祁理(たきり)といふ文字あるとなり・・・」四角な大岩とは、明神社近くの赤羽古墳のこと言っていると思われ、「磐座」と解することができ、町誌の筆者は岩の上で亀を焼いて方位を選定したとも書いています。

また 博打(ばくち)は、ヤクザ映画によく出てくる丁半博打がイメージされて印象が良くないのでですが、元々サイコロを振ることは神聖な行為であり、従って 宮島の博打尾根においてもその名のとおりサイコロを用いた祭祀が行われたことを意味すると思われます。また そばの須賀谷古墳では「六獣鏡」・「八乳鏡」が発掘されており、サイコロの目は六つ、方位は大抵八方位ですので、なにか因縁めいたものが感じられますね！ なお金碇明神社には市杵島姫(厳島神社の祭神の一女神)が祭られています。

さて「磐座」は、神が鎮座または降臨する岩、そしてもう一つは神に対して祭祀する場

のことです。その歴史的意義や変遷を示してくれるのが、福岡県宗像市に属する沖ノ島遺跡です。沖ノ島は、北部九州と朝鮮半島を結ぶ玄界灘のほぼ中ほどの孤島で、宗像大社の航海安全の神である宗像三女神の一神の田心姫(たごりひめかみ)を祀る沖津宮があるところです。

昭和後半期の考古学的調査によって沖ノ島古代祭祀の始終と実態が明らかになり、その祭祀遺物の内容は豪華な質と量により「海の正倉院」とも言われています。

沖ノ島遺跡(磐座)と宮島の弥山と対比しながら変遷をたどりますと、1. 岩上祭祀(4~5世紀:原始・飛鳥時代);弥山頂上の大岩、2. 岩陰祭祀(6~7世紀:飛鳥時代);不動岩、3. 半岩陰・半露天祭祀(7世紀:飛鳥時代);くぐり岩、4. 露天祭祀(8~9世紀:奈良・平安時代);ばくち尾と考えてよいと思われます。1.と2.は原始神道期の巨岩崇拝として発生した「磐座」、3.と4.は歴史神道期として露天祭場への移行を示しています。

宮島の沖合いは、西の大陸への航路になっていますので、上記の時代には中国の文化・法の吸收や朝鮮との軍事的・政治的軋轢のための遣隨使・遣唐使・遣新羅使(朝鮮)を乗せた船が航行しています。

留学生・留学僧や外交使達は、旅の危険を十分に知っていたため国家的祭場である「ばくち尾」に登り、臨時の祭壇を設け、航行の安全を願い祭祀を行ったものと思われます。

結論として、「ばくち尾」は、サイコロを用いて、旅の出発日や方位を占う野外祭祀の最終段階の祭場であって、9世紀の遣唐使の廃止に合わせるように終末を迎えます。

野外祭祀以降は、拝殿を平地に設け窓から山の神に祈りを捧げ、やがて神殿(本殿)の中で神を祭るようになり、そして神仏習合へと進んでいきます。

次回 Q5 : は「厳島神社の朱色はずっと続いてきたものでしようか？」です。

* 参考文献

- ・「郷土史紀行 NO.21 号」H・L・C
- ・「安芸町誌」 安芸町
- ・「古代を考える 沖ノ島と古代祭祀」 小田富士雄編 吉川弘文館

は作業終了の時も告げ ダム側路のモルタルクラックは落砂呼び
掃き残しの大聖院路の松葉哉
(柳瀬 佳史)

弥山登山道清掃

日時 12月12日(土) 9:00~16:00

参加者 足立 井上 小方ペア 小林み

佐伯 渋谷 末原 田中 平田 平山
前田 外田 丸平 宮崎 村上 柳瀬
矢吹 横路

初詣路獅子岩ルートは美装成れり

年末の多忙ものかは 19名 宮島ロープ
ウエーの喜捨登行は展望車 鋼索の晴間の
眼下タマミズキ 樞谷駅に早詣客あり 10
余名 猿 100頭の檻は只今無猿也



頂上近くでの登山道清掃



弥山頂上で作業参加者

獅子岩から紅葉谷別れに清掃痕 路側帯
や溝の落ち葉に土砂余多 親子連れの幼児
は元気消えずの火 片言交じりの美男美女
の謝辞心地よし 山頂の弁当狙う鹿数頭
サミットのコーヒー鋼缶を掘り起こす
鉄屑 16屯下り作業の肩に利く
水掛地蔵の石段は小雨の滑り台 遊女石
畳に喰い込むウリハダの枯葉哉 賽の河原

新春弥山登山

日時 1月9日(土) 9:00~15:00

参加者 足立 岩崎 北野 小林勗 末原

中道 野呂田 平田 外田 松田 丸平
村上 森 横路

(環境省) 西自然保護官 広瀬 AR

新春登山に参加しました。私自身、初登頂
でしたが、町石をひとつずつ数えながらのん
びりと楽しく歩けました。そしてやはり最も
楽しかったのは、皆さんから色々な説明が聞け



研修参加者も加わり鳥居前で

たことでしょう。大聖院ルートや町石、白糸
の滝の歴史・逸話、05年14号台風の白糸川
土石流災害復旧の実態、植物や自然の記録など
生のお話は、登山の魅力・価値を何倍にも
高めてくれるものだと思いました。

山頂まで疲れる暇もなく賑やかにあつとい
う間に着いた感じでした。私は鳥の記録をし
ながら登るつもりでしたが、野帳にはたった
9種(トビ, キジバト, ヒヨドリ, メジロ, シ
ロハラ, ジョウビタキ, ヤマガラ, エナガ,
ハシブトガラス)しか留めていませんでした。

説明を聞くのに夢中だったのと、か細い地
鳴きを聴き分けないといけないこの時期、私
たちの賑やかさに隠れてしまったのでしょうか!
? 山頂からの眺めは雄大で、遠く白木の
山並みも見えました。今度は鳥のさえずりが
賑やかな季節に登ってみることにします(個
人的に) (松田 賢)

5年ぶり岩国で観察会 冬のバードウォッチング

佐伯農園では
みかん刈り

日 時 1月 30 日 (土) 9:30 ~ 15:00

参加者 足立 岩崎 北野 小林ペア 近藤
佐伯 坂本 末原 野呂田 平田 弁田
村上 横路

岩国城山観察会以来 5 年ぶりに 1 月 30 日 (土) 岩国で野鳥観察会を実施した。絶好の日和に恵まれ、9 時半、岩国市川下地区にある山口県指定天然記念物「楠木巨樹群」に集合、総員 14 名であった。

この楠木は 1657 年、時の岩国藩主が別邸に植えたもので、最大のものは、目の高さで周囲 5.65m 、高さ 30m でサギの営巣地にもなっている。そこは錦川が門前川と今津川に分岐



色々の観察用具を使って

する所で、マガモ、アオサギ、コサギなどを観察することができた。



当日の参加者一同

昼食は近くの蜜柑園でとり、食後の蜜柑食べ放題であった。

その後、同市尾津の蓮田に移動した、この地区は野鳥の宝庫と言われており、タゲリ、



門前川を泳ぐカモの大群

ムナグロなど、陸生の冬鳥を観察した。広大な蓮田に点在する保護色になっている野鳥を発見するのは至難の業であるが、発見した時の喜びはまたひとしおであった。

次に門前川河口に移動しカルガモ、シギ類を観察した。ここでは九州有明海周辺以外では珍しいくちばしが赤いツクシガモ 2 羽を観察することができて、感激であった。川鵜の大群が低空移動する迫力にも接することが出来、午後 3 時、現地解散となつた。

(佐伯 宣雄)

(お礼)

今回は佐伯さんの細かな準備により、初の冬鳥観察会ができました。

また観察地近くにある佐伯さんのみかん農園で昼食をとらせていただいたうえ、自ら丹精こめ栽培されている、10 品種以上のみかんをご馳走になりました。

帰りには柑橘類最大の晩白柚(ばんぺいゆ)や多彩なみかん、中国産南京・唐辛子などの野菜も一緒にたくさんお土産にいただきました。本当に有難うございました。

(弁田 祐子)

入浜森林再生事業

日 時 2月 7日 (日) 9:00 ~ 14:00

参加者 小川 末原 幸田 横路

森林荒廃による水源涵養力の低下が見られるため、水源涵養力の向上を目的として、入浜の森林 2箇所のシダ刈と除根作業 (1m四方)を行いました。今後は、この中に実生の木が生えて生長する様子を入浜池の観察時に併せて観察して行きます。(末原 義秋)

シダ刈して整地した観察面



陶貝殻塚探訪

江戸後期の文政十二年(1829)芸藩通志に

「貝殻塚、大江浦、浜辺より十三町許の山間に二丈余の石窟あり。其下、貝から多し。弘治中、陶が残卒、ここに、しのび居たりしなどいひ傳へり」と記されている。



毛利軍に追われた陶軍兵士の一部は、大江川を沢伝いに約一時間さかのぼった所に存在する山中の岩陰に身を隠した。

そして夜になると海岸に出てアサリなどの

貝を掘り、兜を代用とした鍋で煮るなどはかなく消えそうな命をつないでいたのである。

島から脱出することもかなわず多くの兵士はここで餓死したと伝えられているが、殆どの兵士は捕まり、各地方の毛利軍に配属されたと言われる。

島民はこの岩穴を「陶貝殻塚」と呼び、現在でもこの岩穴の中の土を掘り返すと貝殻が出てくる。近年ではこの貝殻塚を訪れる人もなく、シダ類や蔓や棘などの植物が生い茂り近づくことさえもできなかったが、最近のトレッキングブームや厳島神社が世界遺産に登録されたことから歴史を学び、史跡巡りなどに挑戦する中高年の方が多くなり、マムシやシダ類をかき分けて探訪した結果、最近新ルートが確保されている。それでも藪こぎが多く素人の入山は危険であるからベテランガイドの案内が必要である。(中道 勉)

編集後記

昨年末 NHK で放映された「坂の上の雲」の中で入浜海岸がロケ地になっている。明治の松山・三津浜の想定だが、周囲に鉄塔などの人工的構築物がなく、美しい砂浜、景観、自然の宝庫と紹介されている。これからも入浜池の定点観測、汽水化復活水路整備などの活動が益々重要なものと思われる。

(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀 6 番 30 号

広島合同庁舎 3 号館 1 階

TEL(082)223-7450 · FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町 1162-18

(宮島桟橋 2 F)